

J O F I 東京通信

第 12 号 2024 年(令和 6 年)1 月 6 日発行
<https://jofi-tokyo.org/>

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌

目次

コロナ禍も明け、漸く日常の兆しが	1
会長 鈴木 伸一	
テンカラ講習に参加して	2
小田野 紀芳	
溪流魚に魅せられて.....	3
藤倉 佳代	
MASTERS AND LADIES WORLD FLY FISHING CHAMPIONSHIPS	4
粕谷 正光	
頂きを極める者	6
宗圓 正義	
心の故郷、北海道への釣行	8
林 健二	
2023 シーズンを振り返り 2024 シーズンに向けて ..	8
益田 大法	
2023 年コロナ規制が解けての釣り問題	10
新井 勝之	
SUP フィッシング体験の感想と分析.....	11
菅野 健二	
Toc Nymphing.....	13
鈴木 伸一	
時流を捉えた公認釣りインストラクター	14
木村 陽輔	
2023 年度活動実績	15
編集後記	16

コロナ禍も明け、漸く日常の兆しが

会長 鈴木 伸一

それまでは「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる 2 類相当)」として扱われてきた新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、5 月 8 日からは「5 類感染症」に移行されました。それに伴い COVID-19 感染拡大防止対策に関わる様々な制限も解除され、(地球温暖化の影響による自然災害は目に余るものがありますが)今年度は徐々に日常を取り戻してきた1年であったと言えるのではないのでしょうか。釣りに関しても徐々に大

手を振って出かけることが可能となり、電車やバスなど公共交通機関を利用した釣りに出かける機会も増えたような気がします。定期総会に関しても、今年度からは研修会を兼ねると言うことで、GW 明けからそれなりの会場を検討・確保に奔走し、少々遅くなってしまいましたが 7 月 2 日(日)に無事リアルで実施することができました。

コロナ禍においては密を避ける意味でも、当会主催、または共催のイベントは極力小型化、それでいて多くの会員が参加できる機会を増やすために開催回数の増加に努めてきました。その結果、参加者からは「木目細かなサポートを受けることができ良かった(1 家族に対して 1 インストラクターが対応)」、「安全面に対する配慮もしっかりできていて安心してイベントに参加できた」という肯定的な声をよく聞くようになりました。若洲アウトドアフィッシングスクールは当初から小規模・木目細かなサポートを目指して実施してきましたが毎年参加者からは好評を得ています。やはり、我々の活動は単に釣りの指導だけではないので、今後もこの方向で様子を見ていくことにしたいと思います。



毎月第 2 土曜日に実施している若洲海浜公園クリーンアップ作戦は、当初 2 名を想定していた参加者(釣りインストラクターのみ)も多いときは 8 名を超えることもあり、延べにすると多くの会員の方に参加していただいています。また、最近では釣りをされている方々から感謝の声を掛けていただくことも多く、釣り場にゴミを残していく方も少なくなってきたようで、クリーンアップ実施前と比較して釣人に「釣り場環境保全」の意識が高まってきたように感じています。

10 月 14 日に実施した際には、海上保安庁のご協力

も得ることができました。我々が目指す釣りの安全、ルール・マナー、環境保全など考える際には専門家の協力は心強い限りです。今後の JOFI 東京主催のイベントでは海上保安庁を始め、水産庁、東京都など関連する行政や専門家とのコラボも企画していけたらと考えています。新規に JOFI 東京に入会された方は、受講・受験の際の区分が海面・内水面を問わずまずはこの活動から参加していただけたらと思っています。



練馬区からの委託講座に関しては今年で2年目に入り、昨年度の反省を踏まえて今年度は旧中川河川敷におけるハゼ釣り教室のみ2度行うことにしました。昨年度は白子川流域での自然観察も企画したのですが、対象が小学生を含む親子としていたこともあり、一般参加者にとって特定外来生物の扱い、入川時の注意事項、水産動植物採捕についての注意事項など環境保全問題に対しては少々ハードルが高かったようです。なお、今年は夏休みに入り、水難事故、山の事故が多発していたせいも、参加者の釣りに関する安全への意識は思っていた以上に高かったように感じました。また、行政からの委託事業ではやるべき面倒なことが多いのですが、昨年度作成・区に提出した資料はすべて整理し、電子化・保存しておいたので今年度は比較的スムーズに処理できたことを付け加えておきます。

さらに、今年度は新規事業として、7月に若洲海浜公園「レディース釣り教室」、8月に「入門者のためのライトアジスクール in 太田屋」を実施しました。



特に、後者は JOFI 東京初となる船釣り、かつ釣り具業界(ヤマシタ(株式会社ヤマリアコーポレーション)・アルファタックル(株式会社エイテック))とのコラボで実

施できたものであり、有意義な足跡を残すとともに今後の JOFI 活動にとって大きな示唆を与えてくれました。当イベントを足掛かりに次年度以降もお互い Win-Win の関係が保てるような様々なコラボイベントにもチャレンジしていきたいと考えています。

最後になりますが、近年の地球温暖化による影響は、線状降水帯、ゲリラ雷雨、熱中症警戒アラートの発表等々、我々の活動にも大きく関わってくるようになりました。しかも、異常気象は局所的に発生することが多く、予報も直前にならないと正確性に欠けることが多くなってきました。我々の活動は何をおいても安全が第一です。近頃はスマホのアプリでも様々な気象や災害と言った情報が発信されています。有料のものであれば極めて局所的な情報も得ることが可能な時代になってきました。安全対策に関しても今後は最新・正しい情報取得が重要な要素となってくるものと考えます。時代に取り残されないようにアンテナは常に張っていききたいものです。

テンカラ講習に参加して

小田野 紀芳

彼岸の入りをすぎても異常な暑さが続いた今年の夏、秋分の日を迎えほんの少し秋を感じるようになりました。

JOFI 東京副会長の新井さんに迎えに来て頂き、6時過ぎに豊島区を出発した車が、集合場所、青梅線の古里駅前に到着したのは8時頃だったと記憶しております。

すでに古里駅の駐車場には JOFI 西東京の中澤会長はじめ数台の車が到着していました。ここからさらに多摩川沿いに奥多摩湖脇を通り、目的地の峰谷川溪流釣り場までは30分程。現場に揃ったメンバーは JOFI 西東京から10名、JOFI 東京から私を含め4名の計14名。

峰谷川溪流釣り場は自然の溪流を生かした緑豊かな谷谷にあり、足場もしっかりと突き固められており、普通の靴でも十分活動できる快適な釣り場でした。

前置きが長くなってしまいました。テンカラ釣りは私にとって全く初めての体験、道具立て、やり方、テンでカラきし分かっておりません。

ずっと以前からこの様なジャンルの釣りがあることは知っていましたが、実際に始める機会もなく、ただ興味だけは持っていました。

そこで、この企画を知った時、願ってもないことと、即、参加の申込みをいたしました。

さて、いよいよ講習開始です。当日のテンカラ受講者は私一人、講師は西東京の中澤会長、マンツーマンでの講習となりました。

最初は仕掛けの説明から始まりました。

渡された仕掛けは、瀬畑式とか言う黄色い蛍光ラインを撚り合わせたテーパーラインの先に更に号数を段階的に細くしたハリスを結んだもので 3.6m 竿の全長より 2、3m は長いもので、毛鉤も含め全て自作との事。

次に振込の実習、10 時の角度からから竿を跳ね上げラインが後ろに伸び切ったタイミングで前に振るとの説明なのだが、これがなかなかうまくいかない。

何度も何度も振込の練習をしているうちに、ニジマスの放流タイム。

餌釣りの人たちは次々と釣り上げています。

そんな中、私はひたすらラインと格闘を繰り返す。

やっと、振込みが様になりかけてきた頃、偶然に待望のアタリ、すかさず合わせて取り込み。

初めてのテンカラでニジマスを釣上げができることができ、感動ひとしきりでした。



テンカラ初釣果

あっという間に時間が過ぎて、昼食になり、釣り場の食堂で釣果の虹鱒の塩焼きに舌鼓を打ちました。



食堂での一コマ

午後になり、今度は一人で振込みを練習、隣では JOFI 東京の鈴木会長がフライで次々とニジマスを釣り上げる中、改めてテンカラ釣りの難しさを痛感しました。

ひたすら振込みを繰り返すうち、なんとなくコツの様なものを掴めてきました。

その後、数匹の型も見ることができ、すっかりこの釣りの魅力にハマってしまった様です。



鈴木会長の華麗なキャストイング

追記

帰ってから早速、無謀にも、テンカラ竿を Amazon に注文、更に「源流テンカラ釣りの知恵」、「名手に学ぶテンカラ釣りの極意 50」、「名人瀬畑雄三の溪流釣り入門」、「溪のおきな一代記」などを図書館から借りて読み耽っております。

溪流魚に魅せられて

藤倉 佳代

主人と一緒に釣りを始めて早 10 年、専ら海釣りがメインでしたが、ここ最近は溪流釣りにハマっています。

ちょうど一年前の秋に、主人の姉夫婦達家族と奥日光に旅行に行き、途中で昼にバーベキューを兼ねて管理釣り場でヤマメやサクラマス釣りをした際、私だけヤマメを 2 匹釣り上げました。

その姿がとても美しく、2 匹とも個体差があり、1 匹は紫が強く、もう 1 匹はゴールドに輝く感じの色合いだったのを記憶しています。

あー、またあの綺麗な魚を釣りたいなと思っていたら、主人が JOFI 東京の鈴木会長から色々溪流釣りのレクチャー受けていた最中で、私もやってみたいと思い、まずはティムコ主催のフライ教室に行き、キャストイングの基本を学び、その後今年の春に鈴木会長に毛鉤専用の管理釣り場に連れて行ってもらいました。

フライフィッシングの良いところは自然を感じながらも海より軽装で荷物も多くないところも良いかなと思って

います。

最近では地元沼津を拠点に裾野、富士宮の管理釣り場でマス釣りを楽しんでいます。



また地元でフライ専門店を見つけ、そこに行き色々道具を見るのもひとつの楽しみになっており、とりわけ毛鉤は美しく、本物の動物の毛で作られたものが多く、色もカラフルなものもあり、アートを感じます。

そして遂にマイロッドを購入してしまいました。(一目惚れしたロッドでしたがオイカワ専用でした…)ただ川に辿り着くまで雑草掻き分け道なき道を行き、川に入れば滑りやすい岩や川での立ちこみのための体力は必要、また最近では熊の出没も各地で騒がれており、自然と共存しながらも常に危険と隣り合わせという事は忘れてはいけません。

先日鈴木会長にオイカワ釣りの手解きを受けるべく柳瀬川に連れて行っていただきましたが、しみじみとそれを実感した次第でした。



また、どこの管理釣り場に行ってもフライをやっている人はほとんど皆無なか中、身近にフライの大師匠である鈴木会長がいらしたおかげで、フライフィッシングの基本からご教示いただけているのはありがたい限りです。

まだまだ始めたばかりですがいつか自然の川であの

綺麗なヤマメを自分で釣ってみたいし、マイロッドでオイカワ釣りなど、様々な溪流釣りを楽しみたいと思っています。



MASTERS AND LADIES WORLD FLY FISHING CHAMPIONSHIPS

粕谷 正光



KAMLOOPS, CANADA

マスターズ大会出場資格は 50 歳以上との規制があり、男女を問いません。

レディースは勿論女性だけです。今年は 9 月にカナダのカムループスで同時開催となりました。(シニアはスロバキアで、ユースはボスニアにて、別日程で開催されました。)

5 人のチーム構成でマスターズは世界 13 カ国、レディースは 11 ヶ国の参加です。

毎日、午前中 3 時間の試合が 5 日間、ランダムに選ばれて分かれた 5 つのグループ内の 5 試合でのメンバーの順位集計結果で優勝チームが決まります。

今年は川が 2 試合、湖が 3 試合で競いました。

開催国の法規制に準じて、毎回決められるローカル・ルールが本則よりも優先されます。

今年の特徴は 1 本鉤です。(本則では 3 本鉤まで許されます。有名なチェコニフ釣法はこの本則に則っ

た3本鉤仕掛けで、今回は使えません。)

マスターズ・チーム・ジャパンは現地集合、現地解散ですが、2日前に乗り込んだ選手(3名)は開会日前日に現地ガイドを雇い、一番難しそうな Clearwater River を案内してもらいました。

事前に確認しておいたローカル・ルールでは鮭はカウント対象外とのことで、「間違っ掛かることもあるのかしら？」その程度に思っていたら、橋の上から確認できる魚影はほとんどシャケ。

シャケ、シャケ、シャケ

川幅は 100m くらい。橋の上からジーンと見ると岸の流れに沿って、魚群が、一列に並んで大群で登って行く姿が見えます。

地元の爺ちゃんが、ホーク・スコープを使って、産卵を終えて岸に打ち上げられたサーモンを防臭の為に再び川の流れに戻しています。未だかつて無い大群の遡上だそうで、足の踏み場もないくらいです。



試合では、鮭はカウント外ですから、この大群を避けての試合になるとの認識です。

試合会場での試釣は禁止ですから、支流へと避けて、試し釣りをします。川幅は 10m くらいに狭まったけれど、魚群はそのまんま、まるで春先のウグイの遡上状態です。

取り敢えず、教わったエッグを投入すると、一発でフック。6X のティペットに#3 ロッドですが、リールはドラッグフリーにしてあるので十分に耐えています。強烈な曳きで走っても、このロッドとドラッグフリーのリール仕掛けは鮭にとって負荷が軽いのでしょうか、もと居た場所に戻ってきます。何度も繰り返しますが、#3 ロッドではランディングすることが出来ません。止むを得ず、竿をのばしてティペットを切ります。

次に投入したフックにも直ぐに掛かります。真っ赤なピンクサーモンも強烈な曳きです。上から見てレインボーと確信した魚体も、リールファイトで近づいたのは鮭です。何本かはランディングして写真撮影をし、下流には

卵を狙うレインボーやホワイトフィッシュが居るはずとの事で、下流に下がりますが、この群れは途切れません。

日本のシャケもここに集結したのかしら？贅沢な話ですが、1時間ほどで飽きました。



もう一つの川が Similkameen River で、川幅は 20m ほどです。本番で与えられたビート No は 7 番。「ラッキー7 だ。よし！」って、始まる前から上手いきそうな予感。

浅い瀬が続きますが魚影は確認出来ません。たった1日で数時間のテスト釣行から得た経験をもとに、先ずはエッグを結びます。

落ち込みから二つに分かれた流れの合流点のいかにも居そうなポイントへ、ニフを流しますが、反応が全く有りません。ここには鮭遡上の様子も有りませんので何がいるのでしょうか？

大きなニフから小さいニフへと変えて行きますが、ブラインドでの探りに反応が有りません。自分の持ち駒がどんどん消えていきます。まさかとは思いましたが、日本では当たりが無く、ボックス内に一本だけ残っていた赤紫色のミッジを結びました。

なんと、これがヒット fly とは！

本筋の流れに合わせて流すとコンコンと反応が有り、斜めに合わせを入れると、30cm 前後の魚影で、ネットに入れたその姿は Whitefish です。

コントローラーへと運び、承認をもらい、リリースして、カウントシートにサインしての再開です。(因みに、今回のローカル・ルールでは 20cm 以上は全て 500 ポイントに固定されます。従って、記録は全て 200mm です。)

ようやく見つけた当たりフライで順調に釣果を伸ばしていきます。水中の小枝に根掛かりしても半身を冷たい水中に入れて、びしょ濡れで回収します。9本の釣果を上げたところで、1.5時間後のハーフタイムで8番ビートへと30分のインターバルの移動交代です。8番ビートは下流の入渓点で対岸に渡って左右逆転しての再開になります。



再開後も順調に釣果を上げていましたが、12 本目のランディング処理中に絡んでティップが破損したようです。早速、別に用意して置いた#4 ロッドに持ち替えて再開しますが、手の馴染みが違います。数回の当たりにも、対応できずにバラシ。その内に当たりも止まり、そのまま終了となり、12 本全部がホワイトフィッシュでした。

今にして思えば、遡上群の中にキャストすべきだったと。ポイントにはならなくても、シャケ釣りをした方が……。

湖の初戦は前もって情報を得ていたとおりにタイプ 3 でリーチ釣りの決め打ちをしましたが、反応無しで、上ずっていると気がついた時には後の祭り。面倒くささと決断の遅さが致命傷になりました。

8th FIPS-Mouche Masters
World Championship
24-30 Sep 2023 Kamloops BC

29/09/2023 1:19:18

RESULTS: session 4
sector I - Similkameen river - BANK

INDIVIDUAL
PROVISIONAL

PLACE	NAME	TEAM	PLACINGS	POINTS	FISH NO	LONGEST FISH
1	PETE ERICKSON	USA	1	20500	41	200
2	JOHN FISHER	AUS	2	11500	23	200
3	MARCO PILOTTO	ITA	3	10500	21	200
4	CHRIS PUCHNIAK	CAN	4	6500	13	200
5	MASAMITSU KASUYA	JAP	5	6000	12	200
6	ANDRE GOUWS	RSA	6	4500	9	200
7	JEAN MICHEL GILLION	FRA	7	4000	8	200
8	ZDENEK MAREK	CZE	8	3500	7	200
9	JUAN CARLOS CASTRO	ESP	9	3000	6	200
10	JOHN LAWLOR	IRL	10	2500	5	200
11	RENE KOOPS	NED	11	2000	4	200
12	OLIVIER DUPONT	BEL	12	500	1	200
13	GHOST 4	INDIV	14	0	0	0
13	BAZ REECE	ENG	14	0	0	0

2 日目を終って、Clearwater river ではサーモンだらけで有効得点はトップが 2 本、そのあと 1 本が数人続き、その他はゼロ。

あれだけのサーモンですから。遡上するサーモンを避けて有効ポイントを狙うべきとの変な暗示をかけられたような。岸際を遡上するサーモンを避けて流心にキャストしますが、何の反応も無く、ハーフタイムでビートを交代します。

担当コントローラーのおね一様は慰めようと、河原のハート石を拾って陽気にアピールしたり、流れの中のクネクネキャストが素晴らしいと褒めてくれますが、結果はゼロ。

2 戦、3 戦の湖は初戦の経験から、インターミディエイトに変更して、上層を曳いて何とか得点を得ました。

ボートにはコントローラーが乗船せず、選手同士がお互いの釣果を確かめて、サインをし、承認し合っ、助け合い。その内にお互いのキャスト時の譲り合いがあったりして和気あいあい。レディースにコントローラーが乗っていたのは何故かしら？ 戦い方が違うのかしら？？？

頂きを極める者

宗圓 正義

涙が止まらない。

久しぶりに伊豆大島でメジナ釣りをしに来た。初めての宿で、壁に書かれた名前を見て涙が止まらない。

所属する磯釣りクラブの月例会は伊豆大島か三宅島で行われる。その理由は、すとれちあ丸が就航し夜行日帰り釣行が可能になったからである。それまでは、ほぼ伊豆大島で開催されていた。自分が 22 才頃だったかな、三宅島の夜行日帰りが出る様になったのは。それからは自分での個人釣行は、より大物が狙える三宅島に多く通っていた。

職場の後輩に”メジナ釣りに連れて行って下さい”と頼まれた。安全策として、伊豆大島を選択したのではない。天候悪化による船が欠航し東京に帰れなくなり、仕事に行けなくなる可能性が三宅島ではありうるからであ

る。何故かと言うと、メジナ釣りは冬場 12 月から 4 月 GW 前頃までが好機であり、西の強風が荒れ狂う季節が旬に当たるからである。伊豆大島釣行なら、台風以外の欠航は少ないし、素人でも天気図から、船の就航が読めるからなのだ。ところが、自分が通っていた数件の釣り宿は皆、廃業してしまった。最近では三宅島に多く通っているから、どこかの釣り宿を利用しようか迷った。丁度自分が伊豆大島に通い始めた頃に新しく開業した泉津の奥山荘にお願いをして、今、釣りから帰って来た。

宿の壁に”A・You 子”と書いてある。

宿の女将「どうしたずら？あんな。You 子ちゃんを知らないずらか？」

宗圓「うーっ、……………」

あまりの無知無能男の脳裏に風景が甦る。

今から、37 年前位か自分が伊豆大島に通い初めての中から 10 年経った頃の話だ。月例会が年 10 回、個人釣行も同数回で 10 年であれば、伊豆大島に少なくとも 100 回は釣行している計算だ。当時、自分の全盛で毎年のクラブ内での磯上物部門、特にメジナ釣りにおいては年間成績は自分が筆頭であった。生意気な小僧を面倒をみてくれる先輩方もいる。ただし、帰りのラーメン代、房総方面での車釣行での、車代は出して頂けるが、釣りガイドをしなくてはならないし、帰りの東海汽船では、肩もみも納得するまで約 1 時間は行く。磯ガイドって、案内ではないですよ。荷物持ちですよ。先輩方の。当時のコマセはイワシのミンチ。大体 1 つ 1 斗缶に入って 12kg。先輩のも持って、24kg。先輩が 2 人なら自分のも入れると 3 つで 36kg。それに、自分の釣具を入れる 40kg 超えた荷物を持って磯場を 10 分。遠い釣り場だと、30 分歩くのですよ。

その日も、御大名の先輩のガイドをして、釣りを終えての帰り道での事だ。

西の強風を避け、伊豆大島の裏磯に案内して、元町の釣り宿に向かう泉津を超え、岡田に向かう途中のくねくねしたワインディングロードで、目の前にマラソンの練習している女の子がいた。それも、直ぐ後ろにアドバイスするコーチを乗せた車が尾行している。こんな伊豆大島で？

スケベな T 先輩が「おいっ、宗圓。抜くな！前の車両と女の子の間に割り込め！」無理難題である。

仕方なく、わざとらしく抜きづらいふりしながら、割り込んだ。

皆様、ご存知でしょうか。マラソンする時のコスチューム。ピチピチの短パンとシャツですよ。自分より 5 才位年下の高校を出たばかり若い女の子。割り込んで入ったのは、こちらなのに、コーチからスピーカーで「ご迷惑をお掛けおかけして申し訳ありません。」と聞こえる。

宗圓「T 先輩、もうヤバイですよ、行きましょう。」

T 先輩「おいっ、宗圓。ゆっくりと抜け！」「頑張れよ一。」「おーっ、なかなか良い女だぞ！」

宗圓『もーっ、勘弁して。』

ところが、その日から毎月の月例会の度にその娘が

走って練習している。その度に T 先輩から、同じ命令が下る。なのに、こちらのわざとらしい演技なのに、謙虚なコーチからは、「ご迷惑をお掛けおかけして申し訳ありません。」と聞こえる。練習している女の子には「良しいぞ、その調子。」と褒めている。

でもさ、なんで？伊豆大島で？コーチ付で？箱根とか、青梅、奥多摩でいいんじゃない？そうか！自分は感じたのは、パッと見て、その娘。陸上アスリートと言えない華奢な体型。1 年後には後輩の男女 2 人が加入したが、後輩の方がアスリートな筋肉。高校生時代は学校で速かったかもしれないが無理だから、マラソン止めて、オレが綺麗に見える景色の海へ案内しようか。どう見ても 2 流どころか 3 流に見える娘。

たまたま宗圓ガイドする車に同乗していた釣りクラブの事務所長から「T よりも、宗圓に丁度いい年齢な娘だな。」と言われると、25 才で彼女いない歴 25 年の釣りしか頭に無い無能男も気になってしまう。それから 2 年経ち風物詩になってきた個人釣行日もその娘は練習して走っていた。『よしっ、今日は T 先輩もいないし、声を掛けてみよう。』いつもの様に演技で遅く車を走らせ、彼女の真横に並びに、開けておいた助手席の窓から「頑張って下さい。」と女性に初めて声をかけたのがこの声援でした。なんと、T 先輩が何度も頑張れーと声をかけているのに、はあはあ、ぜえぜえ。自分が初なのに、笑顔で振り向いてくれた。「ありがとうございませ。」と言ってくれた。

可愛い。本当に可愛い。T 先輩の「良い女だぜ。」を無視していたが、至近距離 2m 強で目と目が合った。声もとても可愛い。でも…………怖い。目が目が、怖い、虎のようで、それよりも、声が声が、全然息切れしていない。怖い。おかしい。普通の人なら、通勤時、電車に乗り遅れそうになって慌てて駆け出し、ギリギリで間に合った時に声を掛けられたら、答えられるだろうか？とても、可愛さと怖さに痺れた。その次の月もと、釣行後、泉津から岡田を探したが、その日を最後にマラソンの女の子は消えてしまった。自分が 3 流と気が付き、マラソンを止めたのかな？自分は今まで 37 年間そう思っていた。釣りしか無い無能男も異性が気になったのかな？可愛いその子に。

今、釣り宿の壁に”A・You 子”と書いてある。と言う事は、あの謙虚なコーチは K-de 監督？もーっ、涙が止まらない。

自分はどうなんだ！1 流釣師でなく、1 流釣士と自惚れ、あれから何年経っているのだ。なのに、未だに、掛けた大物はバラシてしまう。日記を見ると、この 10 年でメジナを 409 尾釣り上げ、バラシは 80 尾と Excel 日記に計測されている。バラシは 10 尾位と思っていた。自分の失敗は過少に、人の評価も過少に、自分は過大な評価をする無知無能な大馬鹿釣り師だ。バルセロナ五輪で銀メダルで表彰台に、翌五輪でも表彰台に極めた者を 3 流と人生今まで思い込み。自分は”自分で自分を褒めてあげたい”と言えらるだろうか。また、今年もがまかつの宣伝に釣られて、新竿を購入して舞い上が

って釣りに行き、やられて帰って来るのだろうか。頂きを極められなくとも、この前ハリスを切られて、オレの釣をくわえている野郎を釣ってやりたい。

”You 子ちゃん”素敵な笑顔をありがとう。今、涙が止まらない。

心の故郷、北海道への釣行

林 健二

今年、久しぶりに北海道に釣行できた。一番の目的は私にフライフィッシングを教えてくださいました師匠のお墓参り。7年前の6月に急逝してしまったのだが、その後私が仕事の都合で秋田に赴任してしまい、道東に行くのには東京経由しかルートがなく、物理的な距離が縮まった割には時間的に遠くなってしまい、お墓参りに行けずにいた。以前は毎年のように夏休みを利用して道東を案内してもらっていた。東京に戻ってきてからもなかなかまとまった休みが取れずにいて、時間ばかりが過ぎてしまったので、思い切って週末に行くことに決めた。

同地の友人に連絡し、飛行機を予約し、仕事は、、、、何とか週末に何も入らないように調整し、ようやく実現。久しぶりの北海道着陸で灌漑深く、以前を懐かしみながら、現地にレンタカーで向かった。

まず何はともあれ、お墓参り。ようやくの再会に高校生の時からの釣行の日々を思い出しながら感謝と共に手を合わせる事ができた。

友人たちと思い出話をしたのち、翌日午後には帰らなければならないので、近くの川に立ち寄った。熊に遭遇したくないので市街地に近い川を選んだ。何度か連れて行ってもらった川だが、当時はただついていっただけだったので、どこから入渓したのかは記憶になく、地図を頼りに自ら入渓地点を探るところから始めた。しかし、入れそうなどころには必ず車がとまっていて、先行者ありの状態。昔の釣行時は人と会うことが珍しいくらいだったのだが、さすが人気が出てきたということだ。

地図を頼ってようやく入れる場所を見つける事ができた。久しぶりの北海道での釣りにドキドキ感で若干指が震える中、仕掛けの準備をする。川に入り、昔のイメージを思い出しながらキャストをした。あれ？毛ばりを食いに来ない。。。10数年前はキャストすればすぐにニジマスが釣れて、その魚影の濃さに驚いたものだ。初めて北海道でニジマスを釣った時、最初の一匹、ものすごい引きにたじろいで竿をためながら釣りあげたら、たいしたことない、20センチほどのニジマスで、そのサイズに見合わない引きの強さに驚いたものだった。当時はそんなのがよく釣れたのだが、人が多く入った後だからなのか、腕なのか。当時は師匠が良い場所を案内してくれたのが一番の理由なのかもしれない。ここは自分の腕を棚に上げておくことにする。それでも少し釣り上がったら、魚が水面の虫を食べている様子が

見えた。しめた、と思って、キャストしたものの、あれ？私の毛ばりには出てこない。。。昔、使ってた北海道用で大き目の毛ばりを投げていたのだが、どうも様子がおかしい。少しずつ、毛ばりのサイズを落とし、ハリスの太さも細くして。何度か挑戦し、ようやく針にかかってくれた。北海道とはいえ、そう簡単には釣れなくなっていると感じた。釣れた魚は大きくは無かったが久しぶりの北海道ニジマスとの感動の再会ができた。その後、日が暮れるまで何匹かは針がかりして遊んでもらえて、満足する釣行であった。

翌日も半日だけ時間がある。同じ川を選び、昨日人がいて入れなかったところから釣りを開始。昨日の状況から最初から小さめの毛ばりで開始。天気も良く、気持ちよくキャストを続けたが、風がだんだん強くなってきて釣りづらくなってきた。それでも毛ばりに食いついてくれる魚がいて、とても楽しい時間を過ごす事ができた。空港に向かわなくてはいけない時間が近くなり、疲れもあり少し集中力が途切れていたところ久しぶりに毛ばりを食いに来てくれた。何気なく合わせを入れたとたん、これまでの魚と違って一気に走られた。えっ？と思って、思わず竿をためてしまったところで、プツン。糸が切れてしまった。。。呆然。いつもより糸が細くしていたところに、北海道サイズ(逃がした魚なので実際はわからないが。)で一気に走られた。あそこで糸を少し出しておけば状況は変わっていたのか、などと最後に悔しさが残ってしまったが、これも含めて北海道。二日間、楽しませてもらった道東の川に感謝し、帰路についた。

今年には北海道に限らず熊による被害が多くなってきている。今までの常識も通用しなくなっているとも聞く。何よりも安全第一での釣行を心掛け、末永く釣りを続けられる環境を守りたいものである。

2023 シーズンを振り返り 2024 シーズンに向けて

益田 大法

2023 シーズンは、行動制限も解け新型コロナウイルスは、5類に移行され、オンラインリモートより解き放たれるシーズンになり、リアル開催やインバウンド復活の兆しになる1年で、自身も2月よりJOFI東京の活動に初参加いたしました。

若洲海浜公園清掃活動

2023 若洲海浜公園清掃活動、2023年2月11日(土)、3月11日(土)、4月8日(土)、6月10日(土)7月8日(土)、9月9日(土)、10月14日(土)*海上保安庁2名参加有り、11月11日(土)、12月9日、計9回参加、第2土曜日10:30集合11:00~12:00清掃実施。

えっ1時間？と、と思いますが、なかなか良い運動になります。(笑)

回収ごみも種類があり、

1. 漂着ゴミ)家庭用品、日用品、ペットボトル、産業廃棄物、等々
2. 釣り人が出すゴミ)釣糸、仕掛け、餌、等々
3. 釣り人が無意識に出すゴミ)仕掛けの針ドメ部分のプラスチック等々

3 に関してはメーカー様、業者様にて商品の改良改善で、ゴミ削減可能では無いかと思えます。

改善案は、透明をカラーに変えて落下時にゴミとして解りやすくする、仕掛け出す際に落下しづらい構造にする等々

1 年を通して、季節の変化を感じ平時の日常が戻ってきた事を実感できました。

清掃活動だけではなく、海浜公園備え付け救命具の点検や釣り人へのお声掛けにて、安全釣行や釣り場美化の意識付けに、ほんの微力ですが、協力できました。

若洲海浜公園スタッフ、JOFI 東京のメンバーと交流が出来たことや、来園中の子供達が、清掃活動中を自主的にお手伝いして頂き、心温まる出来事が多数ございました。

2024 シーズンも引き続き積極参加していきます。



釣り教室指導活動

親子釣り教室(釣り体験教室)、レディース釣り教室、アウトドアフィッシングスクール IN 若洲(場所:若洲海浜公園釣り施設)、ねりま遊遊スクール(場所:旧中川東大島駅高架下)、計 6 回参加。

インストラクター活動も、初めてで、普段より東京湾、外房での船釣りがメインの私が、若洲海浜公園(サツパ、コノシロ、イワシ、キス、ハゼ)や旧中川(ハゼ)で、オカッパリの釣り指導ができるか否か、大変不安でしたが、諸先輩方の助言も有り、トラブルなくサポートできました。

基本は複数名(親子、家族、友人、知人)の参加ですが、まれに単独での参加も見受けられ大半は、釣行が初めてで、開会時の JOFI 東京 鈴木会長スピーチで

「自然に対する心構えなど・・・」を熱心に聞かれてる感が伝わってきました。

参加者サポート時の心がけ

第 1 に安全に楽しんで頂くこと。

第 2 に釣りに関する(釣り道具も含む)専門用語を極力使わない。

第 3 に釣果に関わらず、また行きたくなるような提案。

第 3 の提案の一例をご紹介します。

ねりま遊遊スクール(ハゼ釣り教室)で、魚(ハゼ)も餌も触れない男の子が親子でご参加頂きました。

お父様は、魚も餌も触れます。通常の釣りでは餌付け、釣れたハゼの針外しの繰り返しになりますがお父さんにイソメを 1 本掛けしてもらい、わざと魚が針掛かりしないようにして(バイトは有るがフックしない状態)お子様には当りのみ(生体反応)体験いただき、イソメが短くなった時点でお父様にバトンタッチで、ハゼを釣り上げて頂く提案をいたしました。魚、餌が触れないのはいつかは克服できます。まず釣りの楽しさ(ウキの動き、竿から伝わる魚の生命感等々)を体感して頂くことを第一に考えて提案しました。

教室では、サポートする参加者とのヒアリングから入ります。参加理由から始まり、得手不得手まで確認後、釣行の様子を拝見させて頂き提案をしていく流れで対応しています。

指導では無く、あくまでも自主性を尊重しサポートする気持ちで取り組みました。

2024 年も、より安全に、より楽しく、参加者をサポートし釣りの魅力を提案出来る様、積極的に活動参加致します。





JOFI 東京 懇親釣りに(ハゼ天麩羅船)活動参加

開催日 2023年11月25日(土)

集合場所・時間 深川富士見 7:30

気温 14℃/8℃、日の出 6:25、日の入り 16:29、中潮、波 1.5~0.5M、風 北-北北西 4m、ハゼ船、釣行タックル 船釣り用キス竿(錘負荷 10~20号)スピニングリール C3000XGタイプ、船釣り用湾ふぐ竿(錘負荷 8~15号)ベイト小型リール 100XGタイプ、カットウグ用竿先(錘負荷 20~30号)道糸は PE0.8号、リーダーフロロ 3号(1.5ヒロ)、準備仕掛け ハゼ天秤仕掛け 2本針(6~8号)、ハゼ錘自動ハリス止めタイプ(1本針)キス天秤 胴付き仕掛け、ハゼ、キス共に錘 6~10号、ハゼ泳がせ釣り用マゴチ仕掛け 三日月錘 15号



初ハゼ船釣行で仕立船も伴い、状況を見てわらしべフィッシング出来ればと準備いたしました。

今年 1 番の寒波の中、天候には恵まれましたが、北

から北北西の 4m 風の為、当初予定の木更津沖は断念。東京湾奥と隅田川での釣行になりました(わらしべ封印)。市販タイプのハゼ仕掛けにてスタートしましたが、中乗さんより「それでは釣れんよ」早々の指摘。ハリスを極端に短くしハゼ天秤を使わない仕掛けに変更しました。状況は大変厳しく、魚の活性が低くショートバイトの連続、魚はいるが、かからない状態が続きましたが、なんとか 7 匹ゲット、持ち帰り友人に食べていただきました。(竿頭 20 匹、厳しいなかで流石です。)

約 4 時間弱の釣行後は、お楽しみの天麩羅タイム、揚げたての天麩羅をキンキンに冷えたビールで流し込む。船上での至福のひとつ(都バス釣行正解)更に、温かいご飯にアサリのお味噌汁 箸休めのお漬物も最高で、お土産にオキアミ佃煮まで頂きました。

自身、初年度を振り返り、皆様と意見交換も出来て、より深い懇親釣りになりました。

幹事の新井副会長には、感謝、感謝です。

2023 シーズンは、参加初年度でしたが、諸先輩方のご指導のお陰で、安全で楽しく終えられました。

個人的には、インストラクター W 氏(中深場オニカサゴのスペシャリスト)との根魚五目釣り(鴨川)クロムツ甘鯛リレー船(鴨川)等々、ご一緒させて頂き、自身初めての釣行も経験でき充実した1年でした。

2024 シーズンは、2023 同様に活動参加し、自分自身の沖釣りスキルも上げていきたいと思えます。

2023 年コロナ規制が解けての釣り問題

新井 勝之

今年の総会終了後に行われました研修会では、水産庁釣り人専門官による、米国における釣り進行制度について「DJ 法」、「スポーツフィッシュ回復」の概要の資料説明がされ、米国における釣りでは「魚類資源管理を主体とした、受益者(釣り人)負担の仕組みによる釣り振興政策」が実施されているのに対し、わが国ではこのような政策は行われておらず、一般にもほとんど知られていないのが現状です。

その後、詳細の説明が行われた後、参加のインストラクターとの意見交換をしましたが、必要性は理解できますが、日本での実施するのは問題点が多く無理との意見が大半を占めました。内水面の方からは比較的肯定的な意見が出ましたが、反対に海水面の方からは、あまりにも現状にそぐわないとの否定的意見が多く出されヒートアップする場面もありましたが、それだけ日本の釣りの問題点が多い事に危機感を抱いていることが伺い知れました。

内水面では、漁協が管理している河川で、過疎化が進み、漁協自体が人手不足で存続が危ぶまれているが増えているし、又、漁協が行ってきた放流活動では魚が増えない等々の問題。海水面では、立ち入り禁止の堤防での釣り、漁港でのマナーの悪さから釣り禁止

場所が増えている。船での釣りでは、一部魚種によっては引数制限、体長制限が設けられているがあまり守られていないのではないのでしょうか？それはそもそも海に魚でキャッチ&リリースに向いていない魚種が多いのと針を飲み込んでしまうことも多い等によるとおもいます。令和5年4月1日からクロマグロの遊漁規制が始まり、「指導に従わない悪質な違反者に対しては、農林水産大臣が指示に従うよう命令をし、その命令に従わなかった場合、(1年以下の懲役、50万円以下の罰金等)が適用されます」となっていますが、甘い規制でどこまで守れるか心配です。

両面で言える事ではコロナ禍でアウトドア志向が高まり、釣り人の増加で、規制、マナーを無視し、トラブルを起こす事や、釣り具の進化で、特にルアー釣りが多様化したことで、生エサを使う煩わしさから解放されるので、特に去女性アングラーを「釣りガール」と呼ぶ俗語まで登場し、増加傾向になっています。また、ユーチューブ動画などに、釣り方から捌いて、料理の仕方まで載っているので、益々入門しやすくなっています。これに加えて、地球温暖化による環境変化に伴い生態系に与える影響を考えると乱獲してきた付けが回ってくるのは必然に思います。魚類を水産資源とらえた遊漁の有り方について真剣に考える時期に有るのではないのでしょうか？

2020年9月に西伊豆町でスタートした「ツッテ西伊豆」は、指定された遊漁船で釣りをして釣った魚を持ちが面倒くさい人や、多く釣れ過ぎた人は同町の産直売所「はんばた市場」に持ち込むと、同町が発行する電子地域通貨で買い取ってくれ、指定の飲食店、宿泊施設、温泉施設、お土産物産店、ガソリンスタンド土130店舗使える。地域おこしと釣った魚を資源として活用する良い企画だと思いますが、釣る魚の量に上限を決めてほしいですね。このように地域と一体となった釣りレジャーの有り方を進めるのもいいかもしれません。

道東で釣れたニジマスの写真栃木のキャッチ&リリース区間で釣れたニジマスの写真を掲載します。



SUP フィッシング体験の感想と分析

菅野 健二

ある日友人から「ブラックバスを釣ったよ！」と、画像と共に連絡をもらいました。

いろいろ話を聞いてみると、変わった釣り方、しかも結構な頻度で釣りあげているこのこと。

それが、このSUPフィッシングというものを初めて知ったきっかけです。

今回は、このなんだか面白そうなSUP/SUPフィッシングの詳細と、川や湖などの淡水での体験の感想、私見を含めた分析を紹介したいと思います。

SUP/SUP フィッシングとは

近年、少しずつ知名度が上がってきた、SUP というものをご存知でしょうか。SUPとはスタンド・アップ・パドルボードの略です。

サーフボードのような板状のボードの上で、パドルを操ることで進行したり旋回したりと、技を楽しむ水上で遊ぶアクティビティです。

SUPボードは安定性が高く、立ったり、座ったり、寝そべったりすることも可能で、SUPボードの上でヨガを行うSUPヨガ、スピードを競う競技などもあるようです。

主に海や湖、河川で使用され、なかでも空気を注入するインフレータータイプのSUPボードが手軽で携帯性に優れ、初心者にも人気です。

そしてそのSUPのボード上で行う釣りが、SUPフィッシングです。



SUP フィッシングのメリット

SUP フィッシングは、岸からの釣り(オカッパリ)とは違い、水上を進むことでポイントへの直接的なアプローチが可能になる点が最大のメリットです。

狙いたいポイントはあるが、岸からだとはアプローチできない状況であったり、レンタルボートを利用するなどの手段がない場合に、SUP を操作し自由にポイントに近づくことができます。

そして、いいポイントを見つけることができれば、釣果につなげることができます。

また、SUP はそれ単体でもとても面白く、気持ちよく、手軽に非日常的な楽しさを感じることができるので、気分転換に釣竿を置いて遊ぶことができることもメリットかもしれません。

SUP フィッシングのデメリット

SUP は浮力の高いインフレーターボードが水面に浮いているという状態なので、風や波の影響を強く受けます。

その場合、ボードが意図せず旋回してしまい、安定した釣りをを行うことが難しくなります。

また、突風などの強風時の波や他船の引き波などで、ボードが大きく揺れて危険を感じることもあります。

水の抵抗の強いルアー(クランク、シャッド、ミノー等)を操ると、SUP ボード自体がルアーに引き寄せられてしまうこともあるので、釣りの仕方をいろいろと考慮する必要があります。

ある動画では、釣り上げた魚のトゲで SUP ボードに穴があき、慌てて岸に引き返すシーンがありました。対象魚によってはそれらの注意も必要かもしれません。

SUP フィッシングの始め方

最近では空気を注入し、ボードを膨らませるインフレータータイプが人気です。より安定感のある SUP フィッシング用の SUP ボードも存在します。

少し大変ですが、付属の空気入れ(市販されているもので、電動で空気を入れるものもあります)を使用し、ボードが十分硬くなるまで空気を入れます。

安全のため、ライフジャケットや体とボードを繋げるリーシュコード、状況に応じてヘルメットを用意します。

転覆することもあるため、貴重品などを携行する場合には防水バックも用意します。

ボードの大きさは限られているので、多くの釣り具をボード上に持ち込むことはできません。釣り具をコンパクトにまとめる必要があります。

水上の遊びは、大変危険を伴います。事故を防ぐため、身の安全を確保するための装備は絶対になります。

SUP フィッシングの事故

SUP を楽しむ上で、免許や専門知識は必須ではないため、SUP の事故は少なくありません。

単純なコントロールミスによる転覆、高波にあおられての転覆、落水、強風で船体のコントロールを失ったり、

海では沖に流されて遭難、行方不明になることもあるようです。

釣り具の固定が不完全な場合、転覆により釣り具が水中に投げ出されることがあります。

着衣での使用が多くなるので、落水時にライフジャケットを着用していないと沈んで溺れてしまいます。

以前、浮力が十分でないライフジャケットを着用した状態で水中に投げ出されたとき、沈んでいき溺れかけたことがあるので、その点も注意が必要かと思えます。

SUP フィッシングを楽しむ条件

現在、SUP/SUP フィッシングは、どこでも楽しめるわけではありません。

遊ぶ前には、各自治体の HP など情報収集し、出廷可能か、SUP フィッシングが可能か、などの確認が必要です。

そして、SUP フィッシングを楽しむためには天候にも注意をしなければなりません。

経験上、風速 3~4m ぐらいから SUP ボードのコントロールが難しくなってきます。

安全に遊ぶためには、自身の体力や技術なども考慮し、危険と判断した場合には直ちに中止してください。

実際に体験した感想ですが、SUP フィッシングは新鮮で、刺激的で、時間を忘れて楽しむことのできる釣りでした。

この釣りが、一つの釣りの手段として確立されるかは今後の状況次第だと思いますが、SUP はファミリー層などにも人気があり、認知されつつあるアクティビティなので、SUP フィッシングも同様に認知されるようになれば面白いなと思いました。



そして、SUP フィッシングはまだ新しく、今後もそれを取り巻く環境は変化していくと考えられます。

釣りの多様性が失われることのないよう、安全を確保し、マナーやルールなどを遵守することが重要だなと思いました。

内容をおおまかにまとめたものですが、SUP フィッシング体験の感想と分析でした。

Toc Nymphing

鈴木 伸一

人は年齢に応じて体力、筋力、運動能力など変わってくるもので、20代にできたやり方が30代になってもそのまま通用するというものではない。私は溪流釣り(と言っても社会人になってからはフライ・フィッシングがメインだが)を中心に季節に合わせ、春は溪流釣りに始まり、GWころになればオイカワやウグイの瀬釣り、夏はアユ、秋風が立てばハゼ、冬場もタナゴ、ワカサギ釣りと様々な内水面の釣りも経験してきた。

若い頃は体力に自信があり、月に一度は登山にも精を出していたこともあり、源流指向の釣りが主であった。北アルプス、南アルプス、奥多摩・秩父、奥利根等の渓を彷徨うこともしばしばといった状況であった。キャストイングも腕力に任せ、遠投重視で止水では遠目のマスばかり狙っていたように記憶している。ところが、そんな釣りが何時までも続けられるわけではなく、毎年何か少しでも工夫をすることで、年相応の釣りを実践してきた。昨年、何気なくネットで”Euro Nymphing”の情報を検索していたところ、”Toc Nymphing”と言う聞いたこともない言葉を見つけてしまった。未だに Toc(ピレネー地区で行われている生き餌釣りの一釣法を指すようだ)そのものの意味も、その言葉がフランス語であるのかスペイン語であるのかさえも良く分らない有様であるが、YouTube で見る限り、竿は Hardy で言えば”Perfection Roach”や”Richard Walker Avon Rod”など極小リング・足高のガイドを備えた Coarse Fishing 用のものに 7cm 前後の line tube extension を備えた小型横転リール、または小型スピニング・リールを使用したマス釣り(Nymphing が付くと、フライラインは使用しないが、毛バリを使用した)のようである。

しかも、ラインシステム、錘使用の有無、浮子や目印の使用の有無、キャストイング方法など特にレギュレーションは定められていないようで、テンカラのように極めて自由度の高い釣りのようだ。World Fly Fishing Championships など競技の場では競技用レギュレーションを守る必要がありこの釣りが適合しないのは明白ではあるが、個人的な釣りではいろいろと発見があるはずである。そこで、昨年の内に先ずはタックルを買い揃え、今年の2月から試行錯誤で実践に移してきた。

やってみるとなかなか面白く、思わぬ発見も多々あるものである。特に関東においては、近頃何処へ行ってもマスはスレスレで、そう簡単にはフライを喰えてはくれない。勢いティペット(ハリス)を細くするのであるが、フライロッドでは合わせ切れで泣きを見るのが常であった。ところが、Toc Nymphing 用の竿はティップが柔らかく、マスがハリ掛かりすると引きに応じて支点がバット側へスムーズに移動してくれるものだから、細糸を使用しても合わせ切れすることが少なく、しかも必要以上に

時間を掛けずに大物がランディングできる確率が高いものである。しかも、竿もリールもライン絡みやラインコントロールのための様々な工夫が凝らされている。強いて欠点を言えば、ティップが殊の外柔らかいので聞き合せ・追い合わせができないと完全なフッキングに至らず、手元でバラしてしまうことが多々有ること、見た目タックルが少々大袈裟に感じると言ったところであろうか。

それに、市販の Toc Nymphing 用の竿は通常 3.6m ~4m 前後と、長尺にも関わらず 3 本継ぎのものが殆どで、電車やバスなど公共交通機関を利用した釣りには少々不便なことも事実である。幸い日本には魚種・釣法に応じて様々なタイプの振り出し竿が市販されている。しかもティップだけを見ても、チューブラーのもの、ソリッドのもの、それらのハイブリッドのものがある。これらや弾性率の異なる素材のパーツを上手く組み合わせ、ガイドやリールシートを取り付ければ如何様な調子の竿でも作成は可能はずである。改造した竿の幾本かは使い物になったものの、素人故使い古しのへら竿、テンカラ竿、ヤマベ竿、それにこのために買い足したコイ竿、溪流竿などいろいろと壊してしまった。そうであっても、それをも含めて今の僕に相応しい釣りに出会えたように感じている。それに、フライラインを使用せずにフライを目的のポイントに着水させるためのキャストイング・テクニックやライン・ハンドによる独特なライン捌きは Fly Fishing そのものに対しても様々な示唆を与えてくれるものである。

さすがに遊泳力に長けたフレッシュランのマタルタには細糸での成功例は少なかったが、



盛期では引きの強いこのような大型魚がとても細糸でランディングできるとは思えないが、.....

極寒(2月:水温が低いので魚の動きは少々鈍い)の神流川冬期釣り場では、6X(0.6号)のティペットで体長 70cm ほどのハコスチ、



小菅川 C&R エリアでは7月にプロポーション抜群な60cm 弱のニジマス、



24cm ほどの湖産アユ、



37cm ほどの尾鰭の良く発達した奥多摩湖から遡上してきたものと思しきイワナ、



9月に入ると改造ロッドで55cm ばかりのこれまた奥多摩湖から遡上してきたナマズを、いずれも 7X(0.4 号)のティペットでランディングに成功。



7 月末の箒川 C&R エリアでさえも、水温上昇のため食い渋るニジマスに 8X(0.3 号)のティペットでランディング。



それなりに成果が得られたシーズンであった。

時流を捉えた公認釣りインストラクター

木村 陽輔

今日の公認釣りインストラクターに願われているものは何だろうかを自問自答していることを(一社)全日本釣り団体協議会としての立場から考えてみました。

公認釣りインストラクター制度は平成4年(1992 年)から始まりましたが、30 年を過ぎて今釣り人を取り巻く環境は大きく変わりました。釣りインストラクターに願われる姿も時代の流れとともに変化してきていることをしっかりと捉えていかなければならないと思います。

まずこの制度は、農林水産省を主務官庁として昭和46 年に発足した全国で唯一の公的釣り人の団体である(一社)全日本釣り団体協議会が行いました。そしてそのもとに公認された釣りインストラクターであること誇りとするものであります。制度が開始されたのは、当時の釣り場を取り巻く自然環境の悪化や釣りのルール・マナーの低下、それはやがて釣り場環境の悪化を招き、水産資源の減少、藻場の消滅につながる事への危惧や釣り場でゴミ投棄等の問題が起こってきていることな

どへの対策として公認釣りインストラクターの養成が行われました。よって釣りインストラクターの活動は、広く一般の釣り人に対して釣りの技術とあわせて水産資源の保護、釣り場の環境保全と安全確保、釣り場でのマナー・ルール等の指導を行うことにより自然環境を守り漁業者とのトラブルや海難事故の発生を防止し釣りの健全な発展に繋がらなければなりません。



初期のインストラクター講習会風景
(東京海洋大学品川キャンパス 1)



初期のインストラクター講習会風景
(東京海洋大学品川キャンパス 2)

公認釣りインストラクター制度が始まったころの釣りを取り巻く社会は、釣りブームに乗って釣り人の数は爆発的に増えていきました。それは、日本全国で行われてきた従来の釣りジャンルが情報ツールの発達により急速に国内に広まっていったことが大きいと思われます。

今日ふたたび始まった釣りブームが我々公認釣りインストラクターに問いかけてくるものは何なのかを考えていかなければならない時に来ております。今釣り人は、豊富な情報から自分が必要な釣り情報を受け取り少人数で釣りに出かける人が多くなりました。昔のように釣りを教える先輩(名人)といわれる人が自分の周りにいない、また人とかかわらずとも自分個人で習得することができるようになってきました。

そのような中で公認釣りインストラクター指導する対象は釣り初心者への指導が多くなってきています。それは釣りの未来を考えた場合に、釣り初心者が最初に誰からどのような指導を受けるかということが問題でそれを公認釣りインストラクターが行うという事は極めて重要なことであると思います。法律を理解しルール・マナーを正しく広めていく釣りインストラクターは今後の釣り文化発展のために必要でありこれからも全国に拡大し人数を増やしていかなければなりません。

そのためにも指導する側の責任としてスキルを高める必要があります。釣りの技術はもとより多方面にわたる知識が必要となってきており各自がこれまで培ってきた釣り経験から得た技術を活かすためにも更なる学びの場が必要だと考えます。これからの釣りインストラクターを取り巻く環境を考えたとき学習しておくべき事として、魚や生物の生態系、それを取り巻く環境問題、自然の中での安全対策、水産業とのかかわりと行政からの指導、釣りインストラクターの指導の在り方など多くあります。

それぞれ事情が違う全国の JOFI と個人が結束しこれから釣りインストラクターが推進していくべきテーマを取りまとめ、未来につながる釣りを伝え残すためにルールを作り魚の棲む環境を守り釣り人のための制度が作られるよう行政に働きかけてまいります。

公認釣りインストラクター制度が出発当時と今日の社会情勢や釣り人の置かれた状況は変わっておりますが、公認釣りインストラクターが釣り界及び社会に果たすべき使命は変わらないものと思います。社会からの期待に応えられる公認釣りインストラクター、釣り人から頼られる公認釣りインストラクター像を目指しましょう。

2023 年度活動実績

日付	活動実績
6/10(土)	親子釣り教室 若洲シーサイドグループ、 日釣振、首都圏釣りインストラクター協賛
7/8(土)	レディース釣り教室 若洲シーサイドグループ、 日釣振、首都圏釣りインストラクター
7/23(日) 9/3(日)	ねりま遊遊スクール(子供ハゼ釣り教室) 練馬区教育委員会委託
8/6(日)	LT アジ釣り教室 YAMASHITA、alpha tackle に協力参加

日付	活動実績
8/27(日)	女性・少年少女ハゼ釣り大会 全磯連関東支部に協力参加
9/16(土)	アウトドアフィッシングスクール in 若洲 若洲シーサイドパークグループ協賛
9/23(土)	テンカラ・ルアー・エサ釣り研修会 JOFI 西東京に協力参加
10/14(土)	ふるさと清掃運動会「荒川でちょっと良いことゴミ拾い」 ふるさと清掃運動会に協力参加
10/21(土)	ファミリー釣り教室 若洲シーサイドパークグループ・(公財)日釣振東京都支部 主催
11/5(日)	ヤマメ発眼卵 BOX 埋設 JOFI 西東京に協力参加
11/18・19 (土・日)	2022 年度全釣り協公認釣りインストラクター資格講習・試験 講師・スタッフを派遣
11/25(土)	懇親釣り会(ハゼ釣り)
1/19～1/21 (金・土・日)	釣りフェスティバル 2023 JOFI 神奈川に協力参加(ニジマス釣りのサポート)、 JOFI の活動紹介 等
1/20(土)	釣りインストラクター・マスター研修会 全釣り協主催
日付	活動実績
3/30(土)	ヤマメ発眼卵 BOX 回収&稚魚放流 JOFI 西東京に協力参加
毎月第 2 土曜日	釣り場クリーンアップ作戦 若洲海浜公園釣り場における釣り場クリーンアップ、及び釣り指導

編集後記

新型コロナウイルス感染症の扱いが第 5 類に移行され、ようやく個人の行動制限が緩和されました。

JOFI 東京としての活動も、徐々にではありますが、従来実施されてきた内容に戻りつつあります。

しかしながら、COVID-19 第 9 波の到来や季節外れのインフルエンザの流行などの発生もあり、感染症に関する脅威は未だ去ってはいないようです。

今までの経験から得た対策を講じて、感染対策に気を配りながら、安全・安心を重視しながら活動していきましょう。

一方、相変わらず世界各国で豪雨等による自然被害の甚大化が増加しており、内水面における釣り場環境の維持に対する不安があることは否めません。

自然との共存が必須となる「釣り」というジャンルにとっては、切っても切り離せない脅威となり得ますので、天候変化の事前確認やライフジャケットの着用等の安全対策を講じた上での釣りを励行して頂きますよう、引き続き宜しく願い申し上げます。

今回の会報も例年同様、特にテーマを決めずに執筆者の自由なテーマで原稿作成をお願いしました。

物価上昇から来る経済不安の中、個人のお財布事情も厳しい状況下での釣りライフになったのではないかと思います。

執筆者の皆様、お忙しい中での会報発行にご協力頂きまして有難うございました。

本会報誌は皆様からの寄稿の様子を見て、適宜特集を組んで発行していきたいと考えています。

原稿は随時募集しておりますので、会員名簿を参照し広報部宛に電子メールや郵送などでお寄せ下さい。

原稿の集まり具合によっては期限を設けて執筆依頼をすることもありますので、その際はご協力をお願い致します。(広報部)

東京都釣りインストラクター連絡機構会報誌 第 12 号

発行日 2024 年(令和 6 年)1 月 6 日

発行 JOFI 東京
(一社)全日本釣り団体協議会 公認
東京都釣りインストラクター連絡機構

編集 同上(広報部)

URL <https://jofi-tokyo.org/>

